

町田市熱回収施設等（仮称）整備運営事業

審査講評

2016年10月

町田市熱回収施設等事業者候補者選考委員会

町田市熱回収施設等（仮称）整備運営事業 審査講評

目次

1. はじめに	1
2. 事業概要	2
(1) 事業名称	2
(2) 事業場所	2
(3) 事業目的	2
(4) 事業方式	2
(5) 施設概要	2
(6) 事業内容	2
(7) 事業期間	3
3. 審査方法等	3
(1) 入札方法	3
(2) 落札者決定手順	3
(3) 審査手順	4
(4) 委員会の審議・審査経過	9
4. 審査結果	9
(1) 資格審査	9
(2) 提案審査	10
(3) 応募者名の確認	12
5. 審査講評	13
(1) 非価格要素審査項目の講評	13
(2) 総評	14

1. はじめに

町田市（以下「市」という。）は、町田市熱回収施設等（仮称）整備運営事業（以下「本事業」という。）を実施する民間事業者（以下「事業者」という。）を公正かつ公平に選考するため、町田市熱回収施設等事業者候補者選考委員会（以下「委員会」という。）を設置した。

委員会では、2015年8月から約1年にわたり事業者の選考等に関する審議・審査を進めてきた。

この度、委員会における審議・審査を終えて最優秀提案者を選定したので、ここに審査講評を取りまとめるものである。

町田市熱回収施設等事業者候補者選考委員会

委員長	荒井 喜久雄	（公益社団法人全国都市清掃会議技術指導部長）
委員	山口 直也	（青山学院大学大学院 准教授）
委員	野本 修	（西村あさひ法律事務所 弁護士）
委員	水谷 俊博	（武蔵野大学 教授）
委員	安田 憲二	（東京工芸大学 非常勤講師）

2. 事業概要

(1) 事業名称

町田市熱回収施設等（仮称）整備運営事業

(2) 事業場所

町田市下小山田町3160番地外（町田リサイクル文化センター敷地内）

(3) 事業目的

本事業は、町田リサイクル文化センター（以下「現施設」という。）のごみ処理設備が耐用年数を迎えつつあることから、建替えるにあたり、市民参加方式により策定した「町田市資源循環型施設整備基本計画」に基づき、熱回収施設（焼却施設）、バイオガス化施設、不燃・粗大ごみ処理施設、新管理棟、ストックヤード棟、洗車場（以下、「熱回収施設等」という。）を同一敷地内に一体で整備することにより、各施設の機能を相互に関連させ、効率的なごみの資源化を図ることを目的とする。

(4) 事業方式

本事業は、市が所有する熱回収施設等の設計・施工を一括して民間事業者を実施させるとともに、長期複数年にわたり本施設の運営を包括的に委託する、いわゆるDBO（Design Build Operate デザイン ビルド オペレート）方式により実施する。

(5) 施設概要

熱回収施設等は、熱回収施設（焼却施設）、バイオガス化施設、不燃・粗大ごみ処理施設、新管理棟、ストックヤード棟、洗車場から構成されるものとする。

項目	熱回収施設（焼却施設）	不燃・粗大ごみ処理施設	バイオガス化施設
処理対象物	燃やせるごみ、不燃・粗大ごみ破碎後残さ、脱水汚泥、メタン発酵残さ	燃やせないごみ、粗大ごみ	燃やせるごみ中の有機性ごみ（生ごみ等）
計画処理量	約 63,000t/年	約 9,000t/年	約 18,000t/年
処理方式	全連続燃焼式（ストーカ方式）	選別・破碎方式	高温・乾式
処理能力	258t/1日 (129t/1日×2炉)	47t/5h	50t/1日

(6) 事業内容

事業者が実施する主な業務は以下の通りである。

ア 経営管理業務

本事業を長期複数年にわたり安定的に継続させるための運営事業者自らの経営管理業務

イ 施設整備業務

熱回収施設等を整備するために必要な次の業務

(ア) 設計業務

(イ) 建設業務

(ウ) 解体業務

ウ 施設運営業務

熱回収施設等を運営するために必要な次の業務

(ア) 運転管理業務

(イ) 維持管理業務

(ウ) 施設運営業務期間終了後の市への引継ぎ業務

(7) 事業期間

事業期間：事業契約締結日から2041年3月末日までの約25年間
 施設整備期間：事業契約締結日から2024年6月末日までの約8年間
 施設運営期間：熱回収施設等の引渡日の翌日から2041年3月末日までの約20年間

3. 審査方法等

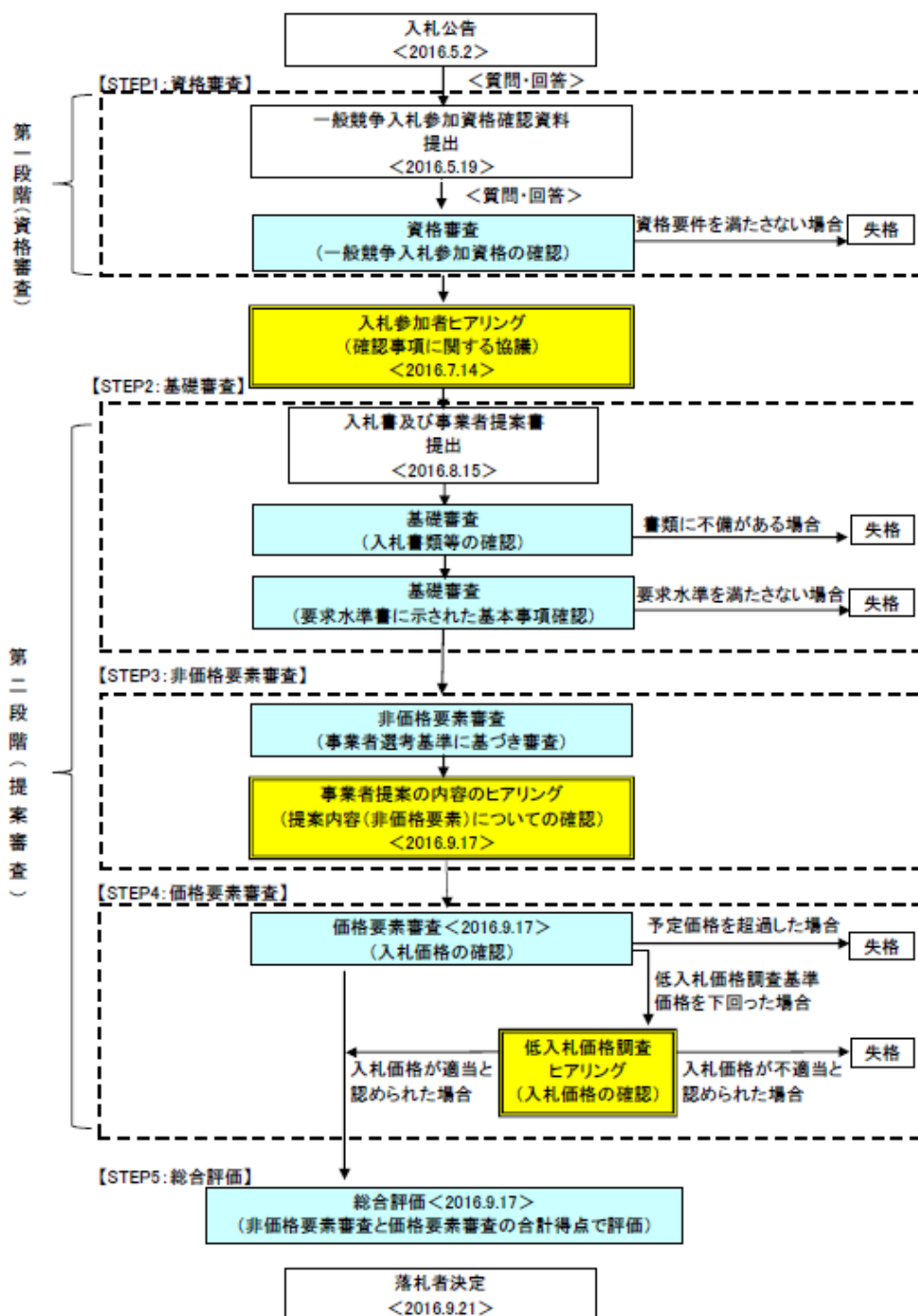
(1) 入札方法

入札の方法は、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の10の2の規定に基づき総合評価一般競争入札により実施した。

(2) 落札者決定手順

落札者決定の手順については、以下の図のとおりである。

図1 落札者決定までの流れ



(3) 審査手順

第一段階：資格審査

STEP1：資格審査

資格審査は、入札参加希望者から提出された資格審査申請書等について、入札説明書に記載の「一般競争入札参加資格」を満たしていることを確認する。参加資格要件を満たしていない入札参加希望者は失格とする。

第二段階：提案審査

STEP2：基礎審査

資格審査を合格した入札参加者から提出された基礎審査資料について、要求水準書等入札資料に示された性能要件を満足するものであること、事業としての妥当性を有しているかの審査を行う。以下に、基礎審査における評価の視点を示す。なお、要求水準書等入札資料に示す基準を満たしていない場合は失格とする。

① 提出書類の確認

提出書類の不足、体裁の誤り、書類間での記載の不整合など提案書として適切なものとなっていること。

② 提案の要求水準の達成の確認

基礎審査資料と要求水準書を対照させ、要求水準書に記載された満たすべき水準に達していること。

③ 契約条件の遵守の確認

入札説明書等において記載した契約条件を順守していること。

④ 事業計画の妥当性の確認

経営管理に係る基礎審査資料を確認し、設定した費用や収支が妥当であること。

STEP3：非価格要素審査

非価格要素審査の提案内容は、表1に示す提案内容に対する評価の視点及び配点とし、提案書に記載された内容について点数化による評価を行う。なお、非価格要素審査にあたっては、提案内容ヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行ったうえで評価を行う。

表1 提案内容に対する評価の視点及び配点

非価格要素審査の提案内容		評価の視点	配点	
① 市民の生活環境に配慮した施設			270	
施設計画	周辺環境に配慮した効率的な施設とするための方策	周辺環境に調和した施設配置・平面計画 ・熱回収施設等（新工場棟、新管理棟等）の配置計画が、運用及び維持管理の効率性を考慮した、安全でスムーズな動線（人と車両）を確保できる具体的かつ有効な提案となっているか。 ・熱回収施設等（新工場棟、新管理棟等）の諸室の構成を含む平面計画の考え方が、具体的かつ有効な提案となっているか。 ・緑地の配置（屋上緑化を含む）や外構計画について、周辺環境に配慮したランドスケープの考え方（既存樹木の活用、地域・市民への開放等）が、具体的かつ有効な提案となっているか。	40	60
		周辺道路からの圧迫感軽減の方策 ・プラント機器等をコンパクト化することによる建物高さの低減（建屋の大きさの低減も含む）について優れた提案がなされているか。また、提案を実現するための方策に妥当性があり、具体的かつ有効な提案となっているか。	20	

非価格要素審査の 提案内容		評価の視点	配点
	施設全体の外観 デザインの考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインコンセプトが、「周辺環境との調和を図るデザイン」及び「地域に親しまれるデザイン」に基づく提案となっているか。 ・外観デザインの工夫について、具体的かつ有効な提案となっているか。 ・3案のデザイン案が、施設コンセプトやメンテナンス性等を踏まえた、それぞれ特徴のある具体的なデザインが提案されているか。 ・1案に絞り込んだ理由について、具体的かつ明快に提案されているか。 ・新工場棟、新管理棟、連絡通路、煙突等の外観デザインに統一性を持たせるための工夫が、具体的かつ有効な提案となっているか。 ・煙突が周辺に与える圧迫感を和らげるための工夫が、具体的かつ有効な提案となっているか。 	40
施工計画	周辺環境に配慮した効率的な施工に係る方策	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の安定稼働、安全で効率的な施工計画について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・想定されている施工期間を遵守するための施工の工夫が具体的かつ有効な方策として提案されているか。また、コストダウンの方法について具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・施工時の騒音や粉じん、工事実施の時間帯など周辺環境への配慮について、既存施設解体工事における密閉養生仮設等も含めて、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・建設廃棄物の削減と環境への寄与について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 	20
プラント性能	各設備の余裕率を最適化するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・主要プラント機器等の設計容量、計画ごみ質範囲内での最大使用量及び余裕率について、優れた提案がなされているか。 ・ごみ量、ごみ質の変動に対する対応性（低負荷・高負荷特性）および処理可能なごみ質の範囲（処理能力曲線）について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・運転上の阻害要因への回避策及びバイオガスの発生量・使用量の時間変動への対応性について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・安定稼働に対する処理プロセス・システムについて、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 	40
	排ガス処理・公害防止性能等を確保するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガス濃度に対する要求水準書に定められた自主規制値を確保するために設備上及び運営上、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・騒音、振動、悪臭の要求水準書に定められた目標値を確保するために設備上及び運営上、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・排ガスの削減量について、優れた提案がなされているか。また、提案された削減方法について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・設備計画により軽減される公害防止対策におけるリスクについて、具体的かつ有効な想定が行われているか。 ・蒸気を用いずに白煙を見えにくくする方策について、具体的かつ有効な想定が行われているか。 	20

非価格要素審査の 提案内容		評価の視点	配点	
循環型社会 形成の推進	残渣性状の保持 や最終処分量の 削減及び金属類 の資源化率の向 上のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・残さ物の品質確保の方法及び基準について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・残さ発生量低減・有効活用等について、優れた提案がなされているか。また、提案された方法が具体的かつ有効な方策となっているか。 ・処理不適物量の削減について、優れた提案がなされているか。また、提案された方法が具体的かつ有効な方策となっているか。 ・金属類等の資源化率の向上について、優れた提案がなされているか。また、提案された資源化物の維持管理方法が具体的かつ有効な方策となっているか。 ・金属類の保管、品質確保と引渡方法について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 	30	
	地球温暖化対策 及び省資源化に 寄与するための 方策	高効率発電及び売電の方策 <ul style="list-style-type: none"> ・発電効率・熱回収率の向上方策、ごみ焼却廃熱の活用について、全体のエネルギー効率を高める運転管理の方策が具体的な提案となっているか。 ・安全かつ効率的なメタン発酵処理が進行し、安定的に高効率でバイオガスを回収するための計画について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・売電収入を最大化するための、売電単価の最大化、年間発電量の最大化の計画について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・約 20 年間の計画売電収入について、年間消費電力量、年間売電量（余剰電力量）、売電単価等を踏まえ、具体的に提案されているか。 	40	60
		再生可能エネルギー活用・省資源化等の方策 <ul style="list-style-type: none"> ・導入した再生可能エネルギーの活用について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・省エネルギーに寄与する機器の採用等施設運営における省エネルギーについて、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・省資源化に関する低負荷材料の使用について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・各ごみ質におけるごみ処理量あたりの用役使用量（①消費電力②燃料（都市ガス）③水④薬剤）について、具体的かつ適切な想定が行われ、その抑制についても具体的かつ有効な方策が提案されているか。 	20	
② 市民が安心して生活できる災害に強い施設			90	
リスク管理	施設・設備の防 災に係る方策	導入した耐震性能の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・建築物の耐震性能を確保する方策が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・建築非構造部材の耐震性能を確保する対策、方法が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・建築設備の耐震性能を確保する対策、方法が具体的かつ有効な提案となっているか。 	30	60
		非常時の運用方策 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時等、外部電源の供給が断たれた場合でも、プラントを速やかに立ち上げ、エネルギーを確保するための方策、及びプラント立ち上げに必要な水等を常時貯留するための方策が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・非常時の防災・運用方策において、バイオガス化設備を活用するための工夫が、具体的かつ有効な提案となっているか。 	30	
	災害時等のリス クへの対応方策	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生管理・健康管理・防災管理を含むリスク管理全般の考え方（体制、方策等）が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・故障及び災害等が発生した場合の対応策や保険など備えが具体的かつ有効な提案となっているか。 ・災害時の避難施設としての対応について具体的かつ有効な方策が提案されているか。 	30	

非価格要素審査の 提案内容		評価の視点	配点	
③ 市民がともに学び・遊び・育むことのできる施設			70	
市民サービス	市民や見学者へのサービス向上のための方策	環境学習やワークショップ等のサービス提供 ・市民や見学者等のニーズに応じた環境学習やワークショップ等のサービス提供の内容・方策について、具体的かつ有効な提案がなされているか。	20	50
		見学者へのサービス提供 ・要求水準書に定める見学者コースの考え方を実現するために、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・要求水準書に定める見学者コースのインテリアデザインの考え方を実現するために、具体的かつ有効な方策が提案されているか。	30	
	市民や見学者が利用するエリアの考え方	・市民や見学者が利用するエリア（建物内外）における、ユニバーサルデザインに関する工夫について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・市民や見学者が利用するエリア（建物内外）において、市民の憩いの場、市民の交流を促すような場を提供できるよう、空間・設備等について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・市民や見学者のセキュリティ・安全確保について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。	20	
④ 市民が安全に生活できる安定的な運営			170	
事業計画	事業計画に関する方策	・責任ある業務遂行を図るための方策（構成企業の倒産等における方策を含む。）について、具体的かつ有効な提案がなされているか。 ・適切かつ確実な財務管理を行うための円滑な資金手当ての確保策が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・安心・安全のためのセルフモニタリング等の業務管理方法について、具体的かつ効果的な方策が提案されているか。	30	
	ライフサイクルコストを低廉化するための方策	・主要プラント機器等を35年間使用するためのライフサイクルコスト低廉化のための補修及び点検等について具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・建築物等を35年間使用するためのライフサイクルコスト低廉化のための具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・想定した維持管理に係る仕様について、具体的かつ適切な費用が提案されているか。	40	
地域貢献	地域社会に貢献するための方策	・施設整備業務及び施設運営業務において、市内業者の活用を図るための体制や発注計画について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・地元で産出、生産又は製造される資材等を使用する計画について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。	40	
施設運営	施設運営全般に関する考え方	・施設運営業務を安定的に行うための体制及び市との連絡等の方策について、具体的かつ有効な提案がなされているか。 ・施設の稼働状況、運営状況等を市民が容易にモニタリングできるよう、全市対象に広く情報公開を行うための具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・運営管理業務期間終了後の引渡し条件について、具体的かつ有効な提案がなされているか。	40	
	運転・維持管理に関する方策	・適切な運転計画について具体的かつ有効な提案となっているか。 ・主要プラント機器等について安定的な維持管理を目指した仕様が具体的に提案されているか。	20	

点数化の方法については、表2に示す非価格要素審査の採点方法の5段階評価とし、非価格要素審査の配点は、600点（総合評価点は1,000点満点）とする。

表2 非価格要素審査の採点方法（5段階評価）

評価	評価	評価の点数化
A	当該評価項目において非常に優れている。	項目ごとの配点×1.00
B	当該評価項目において優れている。	項目ごとの配点×0.75
C	当該評価項目において、具体的かつ適切な提案がなされている。	項目ごとの配点×0.50
D	当該評価項目において、適切な提案がなされている。	項目ごとの配点×0.25
E	要求水準が満たされている。	項目ごとの配点×0.00

STEP4：価格要素審査

価格要素審査は入札金額をもとに点数化する。算定方法については、以下のとおりとする。なお、点数化にあたっては、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで算定する。

また、価格要素審査の配点は、400点（総合評価点は1,000点満点）とする。

$$\text{価格要素評価} = (\text{最低入札価格} / \text{入札価格}) \times \text{配点}$$

※最低入札価格：入札参加者から提出された入札価格のうち最低の入札価格

※入札価格：入札参加者から提出された入札価格

STEP5：総合評価

総合評価は、「非価格要素審査」による評価点と「価格要素審査」による評価点を加えて総合評価点を算定する。総合評価点は、1,000点満点とする。

$$\text{総合評価点} = \text{非価格要素評価} + \text{価格要素評価}$$

(4) 委員会の審議・審査経過

委員会の審議・審査等の経過は次のとおりである。

表3 委員会の審議・審査等の経過

日時	内容
2015年8月17日	第1回事業者候補者選考委員会 (事業の骨子の確認、事業者選考方式の確認、要求水準書作成の考え方の確認等)
2015年10月15日	第2回事業者候補者選考委員会 (実施方針(素案)、要求水準書(素案)の審議等)
2015年11月21日	第3回事業者候補者選考委員会 (実施方針(案)、要求水準書(案)の審議、事業者選考基準の審議等)
2016年1月15日	実施方針公表
2016年2月18日	第4回事業者候補者選考委員会 (実施方針に対する意見・質問等の確認、特定事業選定公表の説明、入札公告資料の確認等)
2016年4月14日	第5回事業者候補者選考委員会 (特定事業選定公表の説明、入札公告資料に関する変更事項の審議等)
2016年4月22日	特定事業の選定
2016年5月2日	入札公告
2016年5月31日	一般競争入札参加資格確認結果の通知発送
2016年6月30日	第6回事業者候補者選考委員会 (参加資格確認結果の報告、入札公告に関する意見・質問等の確認、審査の進め方及び提案ヒアリング方法の審議等)
2016年7月14日	入札参加者ヒアリング
2016年8月15日	入札書及び事業者提案書の提出期限
2016年9月17日	第7回事業者候補者選考委員会 (基礎審査確認結果の報告、提案内容ヒアリング、提案審査、開札、総合評価、最優秀提案者の選考)
2016年10月3日	第8回事業者候補者選考委員会 (審査講評の審議)

4. 審査結果

(1) 資格審査

市は、応募者から提出された一般競争入札参加資格について、審査を実施した。入札参加希望者が競争参加資格を満たしていることを確認し、2016年5月31日に入札参加希望者の代表企業へ一般競争入札参加資格確認結果の通知を発送した。

委員会は、2016年6月30日の第6回委員会において、資格審査の結果について市から報告を受けた。なお、入札参加者の名称については、審議・審査の公正性・公平性を確保するため、最優秀提案者の選考が終わるまで、委員会には企業名を匿名とし、グループ名のみが示された。

グループ名は、「青グループ」とした。

(2) 提案審査

ア 基礎審査

市は、資格審査を合格した入札参加者から提出された基礎審査資料について、入札参加者の提案が要求水準書等入札資料に示された性能要件を満足するものであり、かつ事業としての妥当性を有していることを確認した。

委員会は、2016年9月17日の第7回委員会において市から基礎審査の報告を受け、内容を確認した。

イ 非価格要素審査

委員会は、2016年9月17日の第7回委員会において、入札参加者から提出された非価格要素審査の提案内容について、「町田市熱回収施設等（仮称）整備運営事業事業者選考基準」に基づき、5段階評価の得点化法による非価格要素審査を行い、評価・点数を決定した。

表4 非価格要素審査結果

非価格要素審査の提案内容			配点		青グループ	
①市民の生活環境に配慮した施設			270		178	
施設計画	周辺環境に配慮した効率的な施設とするための方策	周辺環境に調和した施設配置・平面計画	40	60	30	44
		周辺道路からの圧迫感軽減の方策	20		14	
	施設全体の外観デザインの考え方		40		30	
施工計画	周辺環境に配慮した効率的な施工に係る方策		20		12	
プラント性能	各設備の余裕率を最適化するための方策		40		24	
	排ガス処理・公害防止性能等を確保するための方策		20		15	
循環型社会形成の推進	残渣性状の保持や最終処分量の削減及び金属類の資源化率の向上のための方策		30		15	
	地球温暖化対策及び省資源化に寄与するための方策	高効率発電及び売電の方策	40	60	28	38
		再生可能エネルギー活用・省資源化等の方策	20		10	
②市民が安心して生活できる災害に強い施設			90		54	
リスク管理	施設・設備の防災に係る方策	導入した耐震性能の考え方	30	60	18	37.5
		非常時の運用方策	30		19.5	
	災害時等のリスクへの対応方策		30		16.5	
③市民がともに学び・遊び・育むことのできる施設			70		47	
市民サービス	市民や見学者へのサービス向上のための方策	環境学習やワークショップ等のサービス提供	20	50	14	35
		見学者へのサービス提供	30		21	
	市民や見学者が利用するエリアの考え方		20		12	
④市民が安全に生活できる安定的な運営			170		111	
事業計画	事業計画に関する方策		30		24	
	ライフサイクルコストを低廉化するための方策		40		26	
地域貢献	地域社会に貢献するための方策		40		18	
施設運営	施設運営全般に関する考え方		40		28	
	運転・維持管理に関する方策		20		15	
非価格要素評価点 総計			600		390	

ウ 価格要素審査

2016年9月17日、入札参加者の立会いのもと市が開札を行い、入札金額を確認した。いずれの入札金額も、予定価格を超えていないこと、低入札基準調査価格を下回っていないことが確認された。

委員会は、同日の第7回委員会において市から開札結果の報告を受け、事業者選考基準に基づき価格要素を審査し点数化を行った。

表5 価格要素審査結果

区分	配点	青グループ
入札金額（税込）	—	46,202,400,000 円
価格要素評価点	400	400

エ 総合評価

委員会は、イの「非価格要素審査」による点数と、ウの「価格要素審査」による点数を加えて総合評価点を算定し、「青グループ」を最優秀提案者として選考した。

表6 総合評価結果

区分	配点	青グループ
非価格要素評価点	600	390
価格要素評価点	400	400
総合評価点	1,000	790

(3) 応募者名の確認

最優秀提案者の選考後、委員会は市より応募者名が明記されている提案書（正本）の提示を受け、「青グループ」の入札参加者名を確認した。

表7 入札参加者名

区分	青グループ
代表企業	株式会社 タクマ 東京支社（東京都中央区）
構成企業	株式会社 タクマテクノス（東京都中央区）
協力企業	西松建設 株式会社 関東建築支社（東京都港区） 株式会社 三ノ輪建設（東京都町田市） 株式会社 俊設計（福岡県福岡市）

以上より、委員会は、株式会社タクマ東京支社を代表企業とする「青グループ」を市に報告する最優秀提案者として決定した。

5. 審査講評

(1) 非価格要素審査項目の講評

非価格要素審査の提案内容			講評
①市民の生活環境に配慮した施設			
施設計画	周辺環境に配慮した効率的な施設とするための方策	周辺環境に調和した施設配置・平面計画	歩車動線を分離することで安全性・利便性に配慮されている。また、既存緑地を活かし、市民に開放されたランドスケープの提案を優れていると評価した。
		周辺道路からの圧迫感軽減の方策	建物高さを抑え、南側敷地境界から外壁までの距離を確保した提案を優れていると評価した。
	施設全体の外観デザインの考え方		テラスを介して地域に開放された施設とし、周辺地域との調和を図り、地域に親しまれるデザインとした提案を優れていると評価した。
施工計画	周辺環境に配慮した効率的な施工に係る方策		安全で効率的な施工計画の提案を評価した。
プラント性能	各設備の余裕率を最適化するための方策		余裕を持った各プラント機器等の容量、ごみ・灰ピット等の容量の提案を評価した。
	排ガス処理・公害防止性能等を確保するための方策		多重化排ガス処理システムによる高い排ガス処理技術の提案を優れていると評価した。
循環型社会形成の推進	残渣性状の保持や最終処分量の削減及び金属類の資源化率の向上のための方策		不燃ごみの選別率を高め、金属類の資源化率を向上させる提案を評価した。
	地球温暖化対策及び省資源化に寄与するための方策	高効率発電及び売電の方策	エネルギーの効率的な利用により、発電効率を向上させる提案を優れていると評価した。
		再生可能エネルギー活用・省資源化等の方策	実現可能な再生可能エネルギー活用の方策や薬剤等の用役使用量を削減させる提案を評価した。
②市民が安心して生活できる災害に強い施設			
リスク管理	施設・設備の防災に係る方策	導入した耐震性能の考え方	具体的な構造計画のコンセプト及び要求水準を超える提案を評価した。
		非常時の運用方策	災害時等の被害を最小限にとどめ、避難施設として機能させる提案を評価した。
	災害時等のリスクへの対応方策		安全衛生管理、健康管理、防災管理を含むリスク管理に関する具体的な提案を評価した。
③市民がともに学び・遊び・育むことのできる施設			
市民サービス	市民や見学者へのサービス向上のための方策	環境学習やワークショップ等のサービス提供	施設整備段階、運営段階における具体的なワークショップの提案を優れていると評価した。
		見学者へのサービス提供	最新技術を活用した見学コースの提案を優れていると評価した。
	市民や見学者が利用するエリアの考え方		ユニバーサルデザインや、明るく開放的な市民開放エリアの提案を評価した。
④市民が安全に生活できる安定的な運営			
事業計画	事業計画に関する方策		施設を安定的に稼働させるための業務遂行方策や、円滑な資金の確保策、適切なセルフモニタリングの方策の提案を特に優れていると評価した。
	ライフサイクルコストを低廉化するための方策		長寿命化設計や独自技術の導入等の提案を評価した。
地域貢献	地域社会に貢献するための方策		施設整備段階や運営終了時までの市民の雇用計画の提案を評価した。
施設運営	施設運営全般に関する考え方		管理運営に関する新しい技術の導入の提案を優れていると評価した。
	運転・維持管理に関する方策		運転体制、配置人員の具体的な体制、教育プログラムの提案を優れていると評価した。

(2) 総評

本事業は、市の重要なごみ焼却場である現施設の建替えにあたり、最新の技術の粋を集めた熱回収施設等を整備し、将来にわたって安全・安定的で、効率的かつ適切な施設運営を行うことを目的としたものである。さらに市は、この建設地を含めた地域全体の魅力を高め、市民にとって誇りとなるような施設づくりを目指してきたところである。

本事業の特徴としては、国内でも先進的なバイオガス化施設を整備し、発生させたバイオガスにより発電を行うことや、新工場棟及び新管理棟の竣工から現施設の解体、その後の外構整備完了までの工事期間が長いこと、また、整備・運営段階において地域住民との丁寧な対話を重視する必要があることなどが挙げられる。そのため、提案内容には高度で幅広い専門性と技術力が必要とされるだけでなく、地域の特性などを正しく理解することが求められるものであった。

また、入札段階において、震災復興事業や東京オリンピック関連事業を起因とする建設業界の著しい需要増加によって建設物価の高騰や人員不足が顕在化していることもあって、本事業への積極的な入札参加の見通しは厳しい状況にあった。

こうした状況の中、入札に参加した「青グループ」による提案は、本事業の趣旨・目的や市の状況を十分に理解し、豊富なノウハウと高い能力、熱意、創意工夫が反映された優れた内容であり、市の示した要求水準を上回り、期待に応えるものであった。

この様な優れた提案を提出するに至るまでには、相当の労力を要したと推定される。短期間のうちに、このような提案をまとめあげた「青グループ」に対して、深く敬意と謝意を表したい。

委員会では、「青グループ」の提案内容について厳正なる審査を進めた結果、最新技術を用いたごみ処理システムを採用し、資源の効率的利用と発電の高効率化を図ることや、周辺地域との連続性・配慮を重視し、視覚的・物理的に開放的な施設計画としていることなどが高く評価され、「青グループ」を最優秀提案者として選考するに至った。

今後、市と「青グループ」とは事業契約を締結し、事業に着手していくことになる。市及び「青グループ」は、入札における競争性や公正性を妨げない範囲において、本事業をより質の高いものとするために具体的な協議を進め、対等の立場で契約手続きを行い、事業の円滑な推進に万全を図られたい。

なお、委員会の審議において、「青グループ」の提案内容について、以下のような配慮すべき事項が挙げられた。これらの配慮事項については、「青グループ」は市と十分な協議を行い、真摯な対応に努めていただきたい。

- 本事業にあたっては、市と周辺住民で定めた事業コンセプトに基づき、市民の生活環境、安全性に十分配慮した施設となるよう適切かつ確実に業務を実施すること。
- 建築の外部・内部デザインについては、積極的に専門知識を取り入れた提案を行い、周辺住民の理解を得られるよう、十分に協議して進められたい。
- バイオガス化施設及び高温高圧ボイラについては、提案された性能が確実に発揮でき、ライフサイクルコストの低減が実行できるよう、設計・施工・運営を行われたい。
- 施設については、災害時の防災機能と耐震等の構造の基準を順守することはもちろん、避難施設として市民が安心して活用できるよう対応を図られたい。
- 地域への貢献については、積極的な市内業者の活用や市民雇用を行うよう更なる拡大を図られたい。
- 本事業にあたっては、市民に安心を与え、信頼を得るために、市民への情報発信や情報開示を積極的に図られたい。
- 環境学習等、市民や見学者が利用するエリアで提供するサービスについては、本事業期間を通じて適宜見直しを図り、柔軟に対応されたい。

最後に、これから長期にわたる事業期間を通じて市と「青グループ」がパートナーとして良好な関係を築き、その関係を維持しながら市民目線に立って、本事業に携わることを希望する。

また、これまで現施設において積み重ねてきた市民との信頼関係を継承し、新たな施設が市民・市・事業者の相互理解と協力により、地域の拠点としてコミュニティの形成に寄与することを期待したい。

2016年10月

町田市熱回収施設等事業者候補者選考委員会 委員長 荒井 喜久雄